



愛する妻や  
子どもの……

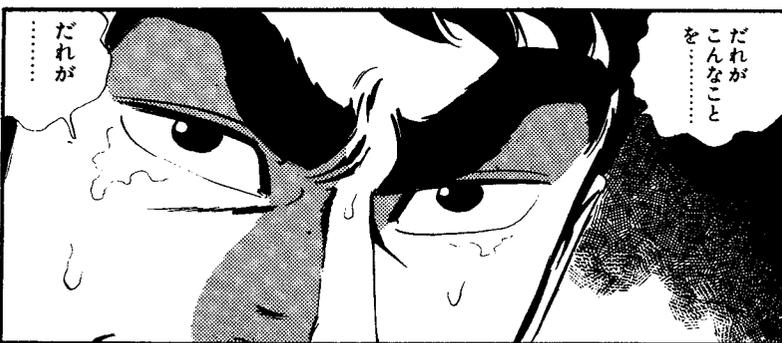
父や母のからだ  
がまるで標的に  
されたように、  
数十発の弾丸が  
うちこまれていた

しばらくの  
あいだ、自分が  
おれは、自分が  
夢の世界に  
いるのでは  
ないかと思っ  
た



だが……  
それは現実  
だった……

冷酷にも、  
それは  
現実だった



だが  
こんなこと  
を……

だが



このことは、  
受話器を  
置いたあとも  
洞窟でさけんだ  
声のように……

おれの頭の中  
で  
ぶきみに  
ひびいて、消え  
なかった……



おれは、  
これはだれかの  
悪質ないたずら  
ではないかと  
思った……

いや……  
そう思いた  
かった……

そう  
信じられ  
なかった……



板付空港を  
飛びたった  
羽田行最終便  
ムーンライトの  
機上でも……

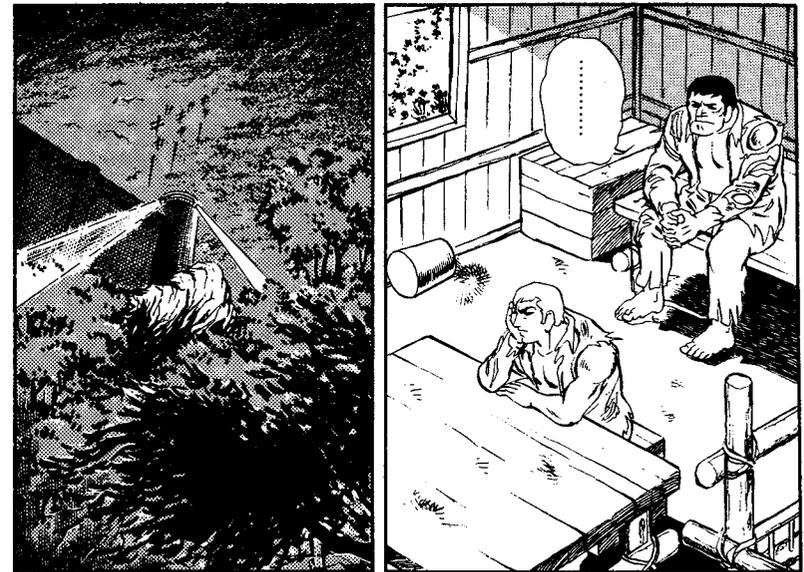
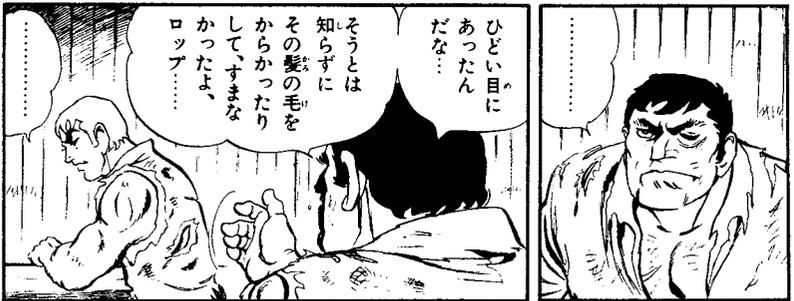
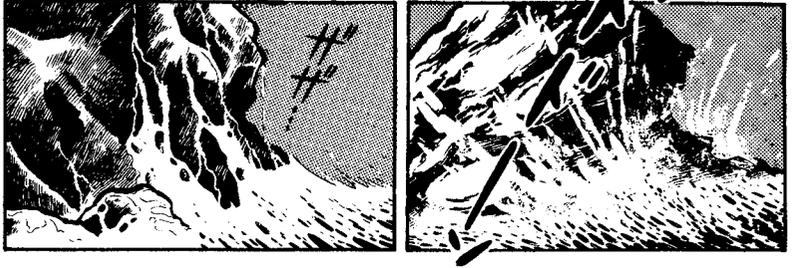
おれが帰宅  
したら、  
家族の明るい  
笑い顔が……

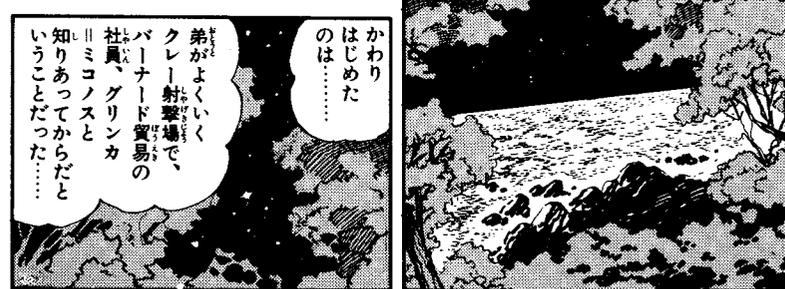
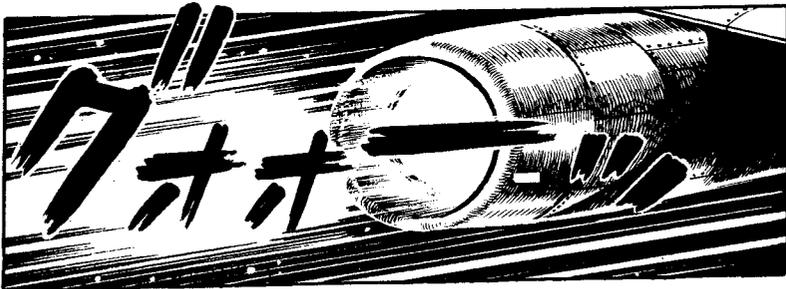
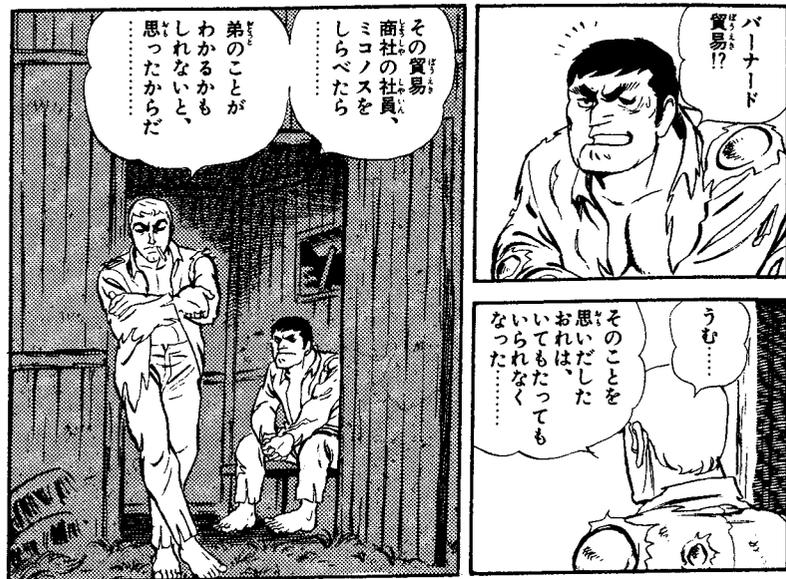












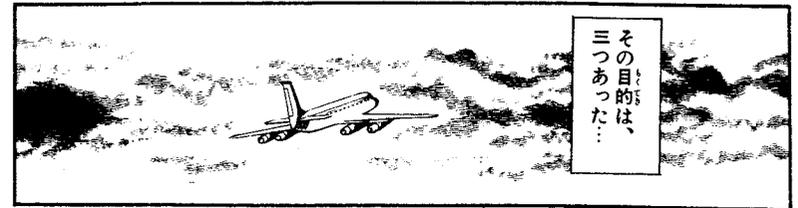


たとえ、それが  
血肉をわけた  
弟であっても

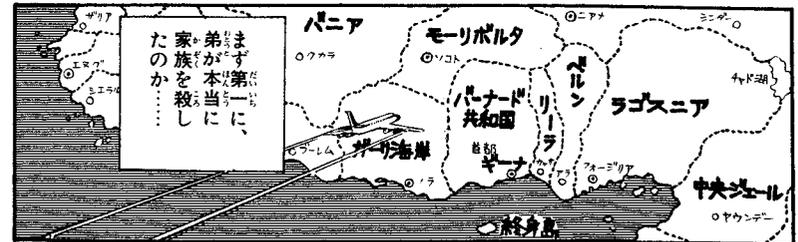
人間の心を  
うしなつた  
ケモノと化して  
いるならば



おれは  
かならず、  
この手で  
殺して  
やる!!



その目的は、  
三つあった...



まず第一に、  
弟が本当に  
家族を殺し  
たのか...



第二に、  
それが事実  
だとしたら、  
その動機は  
何か!?



第三は、  
おれから  
しあわせの  
すべてをうばつた  
残酷な殺人鬼に  
対しての  
復しゅうだ!!